全國農業教育新聞

第２号

発行所
全国高等学校農場協会
東京都渋谷区
円山町２－20

民の希いは 繁栄の　歴史新たに おこるとき
進む技術の研鑽に　喜び集う 農場協会

第588号　平成29年11月10日
（年４回発行）

第66回 全国大会

66回を迎えた全国高等学校農場協会、公益財団法人全国学校農場協会の全国大会並びに研究協議会が、6月1日（木）・2日（金）の二日間、東京永田町の星陵会館において開催された。

第66回全国高等学校農場協会全国大会並びに研究協議会は、多くの来賓を迎え、盛会裏に終えることができた。

始めに全国高等学校農場協会会長、岡本利隆より挨拶と来賓の方々への感謝の言葉が述べられ、農業教育の振興を目的として協会の歴史、活動趣旨、農業高校の役割等のお話をいただいた。そして、協会のあり方として、全国高等学校農場協会、公益財団法人全国学校農場協会、全国農業高等学校長協会（日本学校農業クラブ連盟）の役割が不明瞭のため、各団体の事業を棲み分け、役割を明確にするために現在改善協議に取り組んでいることについて説明された。また、東京オリンピック、パラリンピック２０２０における食料調達基準がグローバルＧＡＰと同水準と示されたことで、国際規格にあった国産農産物の供給体制の確立が急務であり、農業高校でもＧＡＰ教育に力を注ぎ、地域の農業や社会を支える自立した人材を育成する地域の農業高校としての役割を果たすことが今、何より肝要であることが強調された。その後、感謝状が、前会長大木高之に贈呈された。

また、衆議院議員、石破茂先生、宮川典子先生始め、多くの来賓のご挨拶をいただいた。

開会式の後、総会が開かれ、平成28年度事業報告、決算や平成29年度本部役員改選、事業計画、予算がそれぞれ承認された。

講演　当面する初等中等教育の課題

文部科学省
初等中等教育局
児童生徒課
産業教育振興室長
髙見　太也 先生

髙見　太也 先生

1、学習指導要領改訂の動向についてこれからの教育課程の理念として、よりよい学校教育を通じて、よりよい社会を創るという目標を学校と社会が共有し、それぞれの学校において、必要な教育内容をどのように学び、どのような資質・能力を身に付けられるようにするのかを明確にしながら、社会と協働によりその実現を図っていく。

2、高大接続改革について

学力の三要素をバランスよく育むことが必要。

一、知識・技能の習得
二、知識・技能の習得を基にした思考力、判断力、表現力の習得
三、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を養う

3、実践的な職業教育を行う新たな高等教育機関の制度について

4、農林水産業を学ぶ高校生の就農・就業に向けた人材育成について

農林水産業界や関連産業界との連携・ＧＡＰ認証取得の促進の重要性、ＧＡＰ認証制度の取得推進を図るための教員に対する研修制度の充実・国際交流の推進・農業高校と都道府県の農業大学校との連携強化

5、スーパープロフッショナル・ハイスクールについて

6、全国産業教育フェアについて

7、高校生の留学推進について

8、地域ビジネス創出の事業について

以上のような内容で講演をして頂きました。

二日間にわたる大会および研究協議会は、決議文を採択して今年も盛会の中、無事終了した。

全国高等学校農場協会 平成29年度決議文

東日本大震災、熊本地震、全国各地で起こる豪雨による災害等、途切れることなく発生する自然災害。国土

はその度に壊滅的被害を受けている。そして自ずと、地域農業はもとより、農業関係高校も多くの被害を受けてきた。将来の日本を支える若者達が、地域農業や農業関係高校に希望を持って取り組むことができる環境の整備が急務である。

また、日本農業は、農業従事者の超高齢化に伴い、今後、世代交代や離農が急速に進むと言われている。

このことは、衰退産業と言われ続けてきた農業を成長産業へと転換して行く好機とも言える。さらに、東京オリンピック・パラリンピックの食料調達には国際認証を踏まえた農業経営が求められ、国際化への一方策と期待されている。

我々は、このような状況を踏まえ知識・技術の研鑽をし、有為な人材の育成に努めなければならない。

現在、全国の農業関係高校の施設・設備は老朽化が進み、授業に支障を来している。生徒の安全を確保し、時代に対応した施設・設備で農業教育を充実させ、日本農業を担う人材の育成を推進しなければ、将来、我が国の農業は、国民の食料を生産する能力をも失う可能性がある。

これらの実現のために、次のことを要望する。

一、先進農業教育を推進する為の施設・設備の整備に関する予算の拡充。

一、農業科教職員の待遇の改善と充実。

一、農業教育の質的向上に必要な条件整備。

一、農業関係高校生に、国際化への対応に向け知識・技術の習得機会確保と予算措置。

右決議する。

平成二十九年六月二日

この決議文が全会一致で承認された。

全体写真

農林水産高校を応援する会が小泉氏を招聘して講演

衆議院議員
小泉 進次郎
先生

第66回全国高等学校農場協会全国大会並びに研究協議会1日目の6月1日、農林水産高校を応援する会が開催され、衆議院議員小泉進次郎先生を講師としてお迎えし「農業高校におけるGAP教育等の推進について」と題する講演と意見交換が行われました。これからの農業は高齢化、農家減少により農業生産が低下し、今後も海外からの農作物の増加が見込まれるため、農業戦略としては農業教育での人材育成がいかに大切かを話されました。また農作物の輸出を拡大するためには、世界農業規格・世界農業認証を今後どのように活用していくのかについてお話を頂きました。グローバルGAP認証はすでに世界でのスタンダードになりつつあり、2020年の東京オリンピック・パラリンピックで調達される農産物はGAP認証を受けて生産されたものに限られ、GAPへの取り組みは農業者を農業経営者に変えるものとして必要性があるものとのことでした。GAPの事例として、青森県立五所川原農林高等学校では、学校教育でグローバルGAP教育を実践し、昨年、実習りんご園で世界基準である「グローバルGAP認証」を日本の高等学校で初めて取得したことに触れ、これからの農業を支える人材育成として、学校でGAP認証を取り農業の発展に尽くしていくか、または、高校でGAPについて学習し、GAPの知識を持った農業後継者を育て、将来農業法人、組合等で組織的に認証を取ることが出来る後継者を育成していくことが必要である。GAP認証を取ることによって世界一の品質を持つ日本の農産物を、全世界に輸出することが出来るとGAPの重要性を説明されました。また、農林水産高校を応援する会の議員の先生方から応援を頂きました。

GAP（Good Agricultural Practice）認証とは：農業において食品安全、環境安全、労働安全などの持続可能性を確保するための生産工程管理の取組みが「GAP」であり、そのGAPが正しく実施されていることが第三者の審査により確認された証明が「GAP認証」制度で日本の制度はJGAP、世界的レベルはGGAPと呼ぶ。現在約四千五百の生産者が認証を受けている。（平成29年3月現在）

「食」「環境」「人」の分野のプロフェッショナルを育成します
都城キャンパス
■環境園芸学部
環境園芸学科
■人間発達学部
子ども教育学科
宮崎キャンパス
■健康栄養学部
管理栄養学科
食品開発科学科
南九州大学
MINAMI KYUSHU UNIVERSITY
南九州大学　検索
都城キャンパス：〒885-0035 宮崎県都城市立野町3764番地1
宮崎キャンパス：〒880-0032 宮崎県宮崎市霧島5丁目1-2
お問い合わせ［企画広報課（宮崎キャンパス）
0120-3739-20
http://www.nankyudai.ac.jp